

基本をきっちり押さえて、
実務のレベルアップを図る

2020年8月スタート

当初4月からの開催を予定しておりましたが、
新型コロナウイルス感染拡大により、開催日程
を変更し、8月スタートとさせていただきます。

“品質向上・維持”“適正コスト”“納期を守る”を実現する！

生産管理 ベーシックコース

“問題を見つけ、改善する” 担当者の実務能力向上を図る研修

2020. 8/18 ~ 12/16 全8テーマ

第1回
8/18(火)

工程管理

“小ロット、短納期を実現する”

第5回
10/21(水)

調達・購買管理

“購入品の最適なQCDを実現する”

第2回
9/2(水)

品質管理

“実践に役立つQC手法を学ぶ”

第6回
11/18(水)

生産管理システム

“調達・生産・販売・在庫の最適化”

第3回
9/16(水)

原価管理

“原価を正しく掴む、低減する”

第7回
12/2(水)

安全衛生管理

“労災を防ぐ安全管理体制の実現”

第4回
10/6(火)

在庫管理

“在庫削減と欠品防止のポイント”

第8回
12/16(水)

設備・治工具管理

“設備を故障させない管理ノウハウ”

実務経験豊富な講師が管理手法をわかりやすく解説します！

スムーズな多品種小ロット生産を実現する工程管理とは!/?

ポイント

- ① 生産計画・生産統制の業務内容、流れについて理解する
- ② 工程管理のノウハウ、押さえどころについて学ぶ

講師: 保井 克允 氏

(保井コンサルタント事務所 所長)

松下電器産業㈱ 生産技術本部にて、長年にわたり国内、海外事業所のモノづくり改革指導に従事。退職後は、モノづくり革新コンサルタントとしてセミナー講師、人材育成指導を行う。

1 工程管理の必要性和目的

2 生産計画・・・立て方のポイント

- (1) 日程計画の流れとやり方
 - ・大／中／小日程計画の使い分け
 - ・基準日程の役割と求め方
 - ・「パート手法」によるスケジューリング
- (2) 手順計画の流れとやり方
 - ・手順計画の検討事項とステップ
 - ・フローチャートを使った工程設計【演習】
 - ・作業設計と作業標準の作成
- (3) 工数計画のやり方
 - ・生産能力と負荷の計算方法
 - ・「負荷山積み表」を使った計画のやり方
 - ・負荷の山積み・山崩し【演習】

3 計画の実効性を高める生産統制

- (1) 生産統制のねらいと 4 つの機能
- (2) 目で見てわかる進捗管理の進め方
 - ・進捗管理成功のポイント
 - ・進捗管理の方法と管理ツール
日程管理板／差立板／納入時刻表
 - ・かんばんを使った見える現場管理
- (3) 現品管理の押さえどころ
 - ・保管方法、員数管理、事務手続
 - ・精度を上げる整理、整頓の進め方
- (4) 余力管理の進め方
 - ・負荷オーバーの対応のやり方

4 レベルを上げる工程管理改善

- (1) まずは工程管理の実力を知る
- (2) 現場主導で進める改善のポイント
 - ・シンプルでわかりやすい指示命令
 - ・現場での小日程計画の作り込み

品質管理の基礎を学び、現場で管理・改善活動を即実践！

ポイント

- ① 品質マネジメントの基本について、しっかりと理解する
- ② 実践に役立つ品質管理手法を身に付ける

講師: 吉永 俊男 氏

(古永人材開発 代表)

1972 年松下電器産業㈱に入社後、設計品質検討、工程品質管理などの業務に従事。1993 年、同社の品質管理教育と QC サークル事務局として、製造の人材育成全般(QC、IE など)を担当。独立後は、セミナー講師として活躍。

1 “品質”とは何かを理解する

- (1) 良い商品やサービスを実現する
“品質管理(QC)”とは?
⇒同じ品質を維持／良い品質を実現する
- (2) 設計品質で目標を設定し、
製造品質でものづくりを行う
⇒ハードの品質／ソフトの品質
- (3) 品質をつくり込む PDCA サイクル

2 品質管理を進めるQC的な考え方

- (1) QC 的考え方とは
- (2) “お客様指向”と“後工程はお客様”
- (3) “重点指向”と“源流管理”
- (4) “プロセス管理”と“事実による管理”

3 QC的問題解決の手順と手法

- (1) 気付いた問題を解決する
“テーマの選定”(グラフ)
- (2) 重要な問題点を探す“現状の把握”(パレート図)
- (3) どこまで良くする“目標の設定”
- (4) 要因を洗い出す
“要因の解析”(特性要因図、ヒストグラム、散布図)
- (5) 原因を解消する対策を考える
“対策の立案と実施”(系統図)
- (6) 目標が達成できたかを確認する
“効果の確認と標準化”

4 品質管理と品質改善の進め方

- (1) SDCA サイクルと PDCA サイクル
- (2) 方針管理と日常管理
- (3) ボトムアップの活動“QC サークル活動”
- (4) 適切な物差しで見る管理尺度
- (5) 良いやり方を続けるための社内標準化

原価をしっかりとつかんでコストダウンの切り口を探る

ポイント

- ① 原価管理の基本の考え方をわかり易く学ぶ
- ② コストダウンに結びつく原価管理の実践法を理解する

講師: 福原 政則 氏

(株)福原イノベーション研究所 代表取締役社長兼 CEO)
 1995 年、關日立製作所入社。研究開発、設計、生産技術、製造、調達、経営企画などの業務に従事し、2011 年経営コンサルティング会社設立。現在、経営改革、生産・調達改革、コスト低減活動等のコンサルティングを展開中。

1 原価管理の必要性を知る

- (1) 利原価管理とは
- (2) 利益創造

2 原価の用語と分類を知る

- (1) 原価 (コスト) とは
- (2) 総原価・製造原価・売上原価
- (3) 原価の分類
- (4) 直接費と間接費
- (5) 変動費と固定費
- (6) 財務会計と管理会計

3 原価の計算方法を知る

- (1) 原価計算の目的・種類
- (2) 原材料費の計算方法
- (3) 加工費の計算方法
- (4) 損益分岐点の計算方法
- (5) 限界利益

4 原価管理の進め方を知る

- (1) 目標原価 (標準原価) の設定
- (2) 原価統制 ～原価差異分析～
- (3) 原材料費・加工費・経費等の削減

5 コストの構造化と原単位を知る

- (1) コスト分析の進め方
- (2) コストテーブル

6 コスト低減手法を知る

- (1) 原価企画
- (2) 標準化設計
- (3) コンカレントエンジニアリング
- (4) 原価管理システム

7 コスト低減施策を考えよう

在庫量最適化による在庫削減と欠品防止のポイント

ポイント

- ① 在庫メリット・デメリットを学ぶ
- ② 改善と連動した在庫削減の進め方を学ぶ

講師: 若井 吉樹 氏

(株)しくみカイゼン研究所 代表取締役

日本電気株に入社。システムエンジニアとして数多くの製造業の在庫削減プロジェクトに参画し、これまでに 100 社以上のコスト削減に関わる。現在は独立し、コンサルティング活動やセミナー講演を行う。

1 在庫管理の基礎 ～くさった在庫は捨てよう～

- (1) 売上拡大と在庫削減
- (2) 業界によって変わる在庫の種類
- (3) 在庫がコストを生み出す
- (4) 在庫のメリットとデメリット
- (5) 在庫のコントロールのやり方

2 適正な在庫量を求める

- (1) 在庫管理をやってみよう【演習】
- (2) 在庫を現地現物で見る
- (3) 在庫をデータで見る (分析)
- (4) どうやって入りを決めるか

3 さまざまな発注方式を検討する

- (1) 予測方式
- (2) ボーダーライン方式
- (3) ツーボックス方式
- (4) かんばん方式

4 製造業の在庫管理のポイント

- (1) 製品の在庫管理
- (2) 仕掛品の在庫管理
- (3) 部品・材料の在庫管理

5 さらに在庫削減をするためには

- (1) 買い方・つくり方の改善
- (2) 売り方の改善
- (3) 持ち方の改善

6 在庫削減の事例～コンビニに学ぶ在庫削減～

- (1) くさった在庫は捨てる
- (2) 売れているものと売れていないものに分ける
- (3) 売れている商品には手間をかける
- (4) 正しいデータをつかむ
- (5) 仕入れ条件の「当たり前」を見直す
- (6) 本当の売れ行きをつかむ
- (7) 今までと違ったかたちで在庫を持とう

購入品の最適なQ(品質)C(価格)D(納期)を実現する

ポイント

- ① 購買管理の幅広い基本業務について理解を深める
- ② 調達・購入品の品質・納期・コストの実現方法を学ぶ

講師: 福原 政則 氏

(株)福原イノベーション研究所 代表取締役社長兼 CEO
1995 年、㈱日立製作所入社。研究開発、設計、生産技術、製造、調達、経営企画などの業務に従事し、2011 年経営コンサルティング会社設立。現在、経営改革、生産・調達改革、コスト低減活動等のコンサルティングを展開中。

1 調達・購買部門の役割

- (1) 調達・購買とは
- (2) 調達・購買部門の役割 (責任と権限)
- (3) 企業利益に貢献する調達・購買
- (4) 調達・購買担当者に必要な知識とスキル

2 調達・購買の基本業務

- (1) 調達・購買業務プロセス
- (2) 契約関係
- (3) 法令遵守 (コンプライアンス)
- (4) ミニ講座「コンプライアンスについて考えよう」

3 取引先(サプライヤ)選定・評価

- (1) サプライヤ選定の進め方
- (2) サプライヤ企業分析評価項目
- (3) サプライヤ企業評価の考え方
- (4) 評価基準
- (5) システム化事例『サプライヤ選定システム』
- (6) ミニ講座「企業評価基準項目について考えよう」

4 購入価格の決定

- (1) 購入価格決定の進め方
- (2) 購入価格分析評価項目
- (3) 原単位の考え方
- (4) 購入価格の査定、評価方法
- (5) システム化事例『コストシミュレータ』
- (6) ミニ講座「原単位について考えよう」

5 購入品の最適なQCDの実現

- (1) 最適な Q・C・D の実現の進め方
- (2) ミニ講座「QCD 交渉について考えよう」

6 調達・購買トラブル事例とその対策

- (1) 取引評価をしなかったために起きた事例
- (2) 契約書を作成していなかったために起きた事例
- (3) 取引先管理をしていなかったために起きた事例

7 調達・購買情報収集とその活用

調達・生産・販売・在庫の最適化をトータルで学ぶ

ポイント

- ① 生産管理システムの概要を学ぶ
- ② 失敗しない生産管理システムの導入ポイントを学ぶ

講師: 若井 吉樹 氏

(株)しくみカイゼン研究所 代表取締役
日本電気㈱に入社。システムエンジニアとして数多くの製造業の在庫削減プロジェクトに参画し、これまでに 100 社以上のコスト削減に関わる。現在は独立し、コンサルティング活動やセミナー講演を行う。

1 生産管理システムとは

- (1) QCD 向上のための 2 つのアプローチ
- (2) 生産管理システムで扱う情報
- (3) 生産管理システムと周辺システム
- (4) 生産管理システムの歴史
・ MRP ・ CIM ・ ERP ・ SCM
- (5) 生産管理システムの運用イメージ

2 生産形態に合わせた生産管理システム

- (1) 部品表とは
- (2) 個別受注生産・・・製番管理方式
- (3) ロット生産・・・MRP 方式
- (4) 製番管理方式と MRP 方式のメリット・デメリット
- (5) 自社に合った生産管理システムを選ぶ
- (6) 部品表をつくってみよう【演習】

3 生産管理システムの主な機能と運用イメージ

- (1) 基準情報管理機能
- (2) 受注出荷管理機能
- (3) 生産計画機能
- (4) 購買管理機能
- (5) 製造管理機能
- (6) 在庫管理機能

4 生産管理システム導入で失敗しないために

- (1) 動かない生産管理システム
- (2) 導入スケジュール・ポイント
- (3) プロジェクトでやるべき重要事項
- (4) プロジェクト体制のポイント
- (5) 現場改善と生産管理システムの連携

安全衛生管理を進める上で必要な知識、管理手法を学ぶ

ポイント

- ① 安全衛生管理の基本業務についてしっかりと理解する
- ② 労働災害リスクを削減する手法について学ぶ

講師: 松本 俊吉 氏

(中央労働災害防止協会 講師)

1967 年松下電器産業㈱に入社。松下電子部品㈱で生産設備機器の開発に従事。2000 年より安全衛生統括。退職後、大阪安全衛生教育センターにて安全衛生教育トレーナー養成講座の講師として活動。

1 労働災害の現状について

- (1) 労働災害の発生状況
- (2) 労働災害の要因
- (3) 統計指標

2 労働安全衛生に関係する法令

3 安全衛生管理体制づくり

- (1) 安全衛生法で要求されている管理体制
- (2) 労働災害と企業責任
- (3) 労働災害を再発防止するには
- (4) 安全衛生にかかる教育

4 労災ゼロを実現する設備の安全化

- (1) ヒューマンファクターとは
- (2) 機械設備の安全対策

5 労働衛生について

- (1) 労働衛生における 3 つの管理

6 安全衛生点検について

- (1) 点検の種類
- (2) 点検を効果的に進める手法

7 リスクアセスメント(RA)について

- (1) リスクアセスメントの進め方
- (2) リスクの見積り

8 危険予知訓練(KYT)のやり方

- (1) KYT 4 ラウンド法のやり方
- (2) KYT シートで感性を磨く

9 演習(KYとRA)

- (1) 危険の特定とリスクの見積り
- (2) リスク低減の方策

故障によるロスを防ぎ、製造コストを削減する

ポイント

- ① 設備・治工具管理がいかに重要なのかしっかりと認識する
- ② 設備・治工具管理の実践ノウハウについて学ぶ

講師: 浅田 敏夫 氏

もと松下電器産業㈱ エアコン事業部 設備管理統括者。治具・製造設備設計、または設備管理などを中心に担当。また、その間約5年間にわたり、海外工場の立ち上げ支援も担当。退職後、現場に密着したセミナーやコンサルティングを活動。

1 高まる設備管理の重要性

- (1) 高度化した設備をいかに使いこなすか
- (2) 設備トラブルは想像以上に損失を生む
- (3) 厳しくなる環境、災害への対策

2 設備劣化の内容とその対応

- ・性能劣化 ～本来の能力が出ない
- ・絶対的劣化 ～メンテをしても落ちる
- ・相対的劣化 ～能力そのものの陳腐化

3 どのように設備は故障するのか

- (1) こんな原因で設備は故障する
 - ・異変の放置
 - ・操作ミス
 - ・未熟技能…
- (2) 故障の内容と対策は使用期間で違う
- (3) 設備に生じる欠陥について知っておく
 - ・焼き付き
 - ・摩耗
 - ・過負荷破損…

4 生産保全が基本

- (1) 故障後の対策から故障させない管理へ
- (2) 設備管理の具体的なやり方
 - ・設備導入マニュアル、設備履歴書を作る
 - ・日常点検
 - ・潤滑油管理
 - ・パーツ管理…
- (3) 重点設備の選び方

5 設備の5S管理

- (1) 『故障ゼロ』『停滞ゼロ』『災害ゼロ』
につながる設備の 5 S
- (2) 設備 5 S 活動のやり方
 - ・赤札作戦
 - ・目で見える管理…

6 治工具の管理と改善ノウハウ

- (1) 工具は集中管理する
- (2) 治具の取り違いをなくす
- (3) 実践的な管理手法
 - ・オープン作戦
 - ・背番号制
 - ・形跡整頓…

開催要領

開催期間

2020年8月18日(火)～12月16日(水) 全8講座
(研修時間は各回とも午前10時～午後5時)

研修会場

大阪府工業協会 研修室

大阪市中央区南本町 2-6-12 サンマリオン NBF タワー4F
地下鉄 御堂筋線・四つ橋線・中央線「本町」駅⑨番出口より徒歩4分
堺筋線・中央線「堺筋本町」駅⑧番出口より徒歩約3分

参加対象

各部門の新任・若手の実務担当者、
生産管理全般の知識を体系的に習得したい方 など

講師陣

講師陣はすべて企業内での実践経験が豊富な方々で構成
現在も生産管理コンサルタントとして指導を行うほか、
研修講師としても活躍しています。(プログラム欄参照)

受講費

- 1講座につき 会員会社の方 26,400 円
非会員会社の方 31,900 円
- 全8テーマ受講の場合
1名につき 会員会社の方 193,600 円
非会員会社の方 237,600 円 ※いずれも消費税 10%込み

※お振込先 { 三井住友・備後町支店 当座 No.201068
三菱 UFJ・信濃橋支店 当座 No.321966
りそな・大阪営業部 当座 No.1027054

申込方法

下欄の受講申込書を FAX で当協会宛てにお送りください。
(ホームページからもお申込みいただけます)

折り返し、受講票・請求書・振込用紙をお送りいたします。

※開催前々日以降に取消しの場合は受講費を全額ご負担いただきますので、代理の方の出席をお願いいたします。

FAX 06-6245-9926

お問い合わせは・・・公益社団法人 大阪府工業協会 振興部 TEL: 06-6251-1138

〒541-0054 大阪市中央区南本町 2-6-12 サンマリオン NBF タワー4F

キリトリ線

受講申込書

各担当者の実務能力向上を図る基本と実践

生産管理ベーシックコース

2020年8月18日開講
＜全8テーマ＞

No.6211-0163AM

会社名				事業内容 (業種・主要製品)		
所在地	〒 _____			TEL	()	従業員数
				FAX	()	名
受講者	所属部署	氏名	受講希望コース (○印をお付けください)			
			全8講受講	第1・2・3・4・5・6・7・8講		
			全8講受講	第1・2・3・4・5・6・7・8講		
			全8講受講	第1・2・3・4・5・6・7・8講		
			全8講受講	第1・2・3・4・5・6・7・8講		
			全8講受講	第1・2・3・4・5・6・7・8講		
◎申込担当者 (受講票・請求書等のお送り先) 所属 (役職名) _____ 氏名 _____			◎受講費 () 円 × () 講座 …合計 () 円は (月 日) に () 銀行より振込みます			

お申し込みは ▶ FAX 06-6245-9926 公益社団法人 大阪府工業協会

※申込書にご記入いただいた内容は、事務処理 (受講票・請求書の発行等)、担当講師への受講者名簿提示の他、研修案内の送付に利用させていただく場合がございます。なお、内容の訂正・利用停止をご希望の場合、当協会までご連絡ください。

<https://www.opmia.or.jp/seminar>
ホームページからも受講申込できます



会場のご案内